

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-246658

(43)公開日 平成5年(1993)9月24日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

B 6 6 B 11/02

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 9243-3F

審査請求 未請求 請求項の数1(全 4 頁)

(21)出願番号 特願平4-47101

(22)出願日 平成4年(1992)3月4日

(71)出願人 000232955

株式会社日立ビルシステムサービス  
東京都千代田区神田錦町1丁目6番地

(72)発明者 富永 哲夫

東京都千代田区神田錦町1丁目6番地 株  
式会社日立ビルシステムサービス内

(72)発明者 門倉 久

東京都千代田区神田錦町1丁目6番地 株  
式会社日立ビルシステムサービス内

(74)代理人 弁理士 武 顕次郎 (外2名)

(54)【発明の名称】 エレベーターかご枠

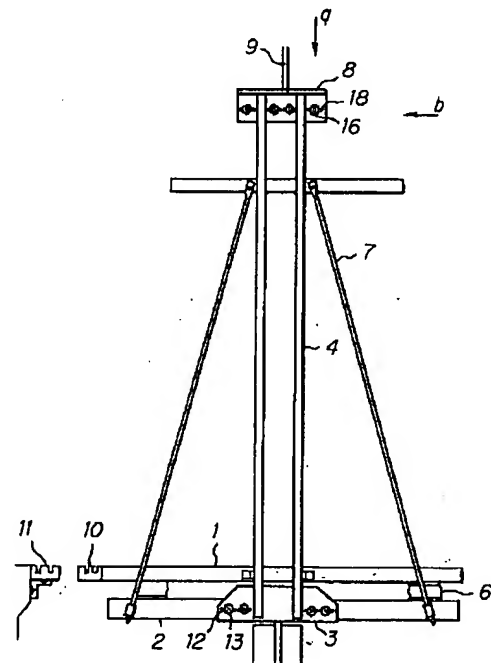
(57)【要約】

【目的】 床の水平度と縦枠の垂直度を保ちながら、シル間の調整を行なうことができるエレベーターかご枠の提供。

【構成】 縦枠4と一体的に設けたブラケット3に水平方向に延設される長穴12を形成し、床部を形成する床1及び下枠2を縦枠4に対して移動可能にボルト13で締結するとともに、縦枠4をプレート15に形成した長穴18を介して、上梁5に対して移動可能にボルト16で締結した。

【効果】 芯出し作業能率を向上させることができる。

【図1】



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 床部と、この床部の両側に立設される一対の縦枠と、これらの縦枠の上部を連結する上梁とを有するエレベーターかご枠において、上記床部と上記縦枠とを水平方向に延設した第1の長穴と、この第1の長穴に挿入されるボルトを介して移動可能に締結する手段、および上記上梁と上記縦枠とを水平方向に延設した第2の長穴と、この第2の長穴に挿入されるボルトを介して移動可能に締結する手段の少なくとも一つを設けたことを特徴とするエレベーターかご枠。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、床部、縦枠、上枠を有するエレベーターかご枠に関する。

## 【0002】

【従来の技術】図4、図5は従来のエレベーターかご枠を説明する図で、図4は斜視図、図5は正面図である。

【0003】従来、エレベーターかご枠は、例えばこれらの図に示すように、床部を形成する床1及び下枠2と、下枠2に締結されるブラケット3を下端に一体的に備え、下枠2の両側に一対設けられる縦枠4と、これらの縦枠4の上部に連結される上梁5とを有する。なお、上述の縦枠4のそれぞれはL型鋼を並設させたものから成っており、また上枠5は例えばCチャンネルを並設させたものから成っている。また、床1は下枠2上に設けた防振ゴム6上に載置してある。7はそれぞれの縦枠4の両側に配置される補強用のタイロッドである。8は上梁5上に設けたブラケットで、このブラケット8に昇降用のワイヤロープ9の一端が固定してある。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】床1に設置されているシル10と、各階乗場のシル11との間隙が基準寸法と異なっている場合は、基準寸法内に納まるように調整する必要がある。このような調整が必要な場合、従来は下枠2とブラケット3の締結部のボルトを緩め調整したり、下枠2に締結されている非常止装置12の下側に締結されているガイドシューとの連結部分のボルトを緩めて、シル10がシル11に近づくように、あるいはシル10がシル11から離れるように調整していた。しかしながら上梁5は縦枠4とブラケット8により連結されているために、上記方法で調整すると上梁5部分を中心に床1等が左右方向に振れる状態となり、これに伴って床1の水平度に狂いが生じたり、縦枠4の垂直度に狂いが生じたり、あるいはかご枠全体にねじりが生じたりすることがあり、さらに面倒な水平度、垂直度等を出す芯出し作業必要となる。

【0005】本発明は、上記した従来技術における実情に鑑みてなされたもので、その目的は、床の水平度と縦枠の垂直度を保ちながら、シル間の調整を行なうことができるエレベーターかご枠を提供することにある。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】この目的を達成するために、本発明は、床部と、この床部の両側に立設される一対の縦枠と、これらの縦枠の上部を連結する上梁とを有するエレベーターかご枠において、上記床部と上記縦枠とを水平方向に延設した第1の長穴と、この第1の長穴に挿入されるボルトを介して移動可能に締結する手段、および上記上梁と上記縦枠とを水平方向に延設した第2の長穴と、この第2の長穴に挿入されるボルトを介して移動可能に締結する手段の少なくとも一つを設けた構成にしてある。

## 【0007】

【作用】床部のシルと建屋の床のシルとの間隙が基準寸法と異なっている場合には、例えば第1の長穴に挿入されるボルトを緩め、第1の長穴を介して縦枠に対し床部を移動させれば良く、この際、第1の長穴は水平方向に延設されているので、床部を水平方向に移動させることができる。所望の間隙が得られた位置でボルトを締結すれば良い。これにより、床の水平度と縦枠の垂直度を保ちながら、シル間の調整を行なうことができる。

【0008】なお、第2の長穴を設ける場合には、上述した第1の長穴に挿入されるボルトを緩める代りに、この第2の長穴に挿入されるボルトを緩めて上述と同様にのシル間隙の調整を行なうことができる。

## 【0009】

【実施例】以下、本発明のエレベーターかご枠の実施例を図に基づいて説明する。

【0010】図1は本発明の一実施例を示す正面図、図2は図1のb方向矢視に対応する上梁と縦枠との接続前の状態を示す図、図3は図1のa方向矢視に対応する上梁と縦枠との接続前の状態を示す図である。

【0011】なお、これらの図1～図3に示す符号のうち前述した図4、図5に示すものと同等のものには同一符号で示してある。すなわち、これらの図1～図3に示す実施例にあっても、床1及び下枠2からなる床部と、ブラケット3を有する縦枠4と、縦枠4の上部に連結される上梁5等を備えている。

【0012】そして、この実施例では特に、図1に示すように、縦枠4に一体的に設けられるブラケット3に、水平方向に延設される長穴12を形成し、この長穴12内にブラケット3と下枠2とを締結するボルト13を挿入してある。また、図2、図3に示すように、上梁5の端部にプレート14を一体的に設け、このプレート14に対向するように縦枠4にプレート15を一体的に設け、プレート14には図1に示すボルト16が挿入される穴17を形成し、プレート15にはボルト16が挿入される長穴18を水平方向に延設するように形成してある。

【0013】このように構成してある実施例にあっては、当該かご枠の芯出し作業の結果、床1のシル10と

3

建屋のシル11との間隙が基準寸法と異なっている事態が生じたときには、例えばブラケット3を締結しているボルト13を緩め、下枠2をシル11に近づく方向に、あるいはシル11から離れる方向に移動させ、シル間隙が基準寸法となった位置でボルト13を締めれば良い。これによって、シル間隙を容易に基準寸法にすることができるとともに、下枠2に一体的に床1が水平方向に移動することから床1の水平度に影響を与えることがなく、また、縦枠4を移動させることがないので縦枠4の垂直度にも影響を与えることがなく、したがって水平

度、垂直度の再芯出しを要することがない。  
【0014】なお、必要に応じ、ボルト16を緩めて上梁5に対して縦枠4を水平方向に移動させ、シル間隙の調整をしても良い。この場合でも、縦枠4の垂直度、床1の水平度に影響を及ぼすことはない。

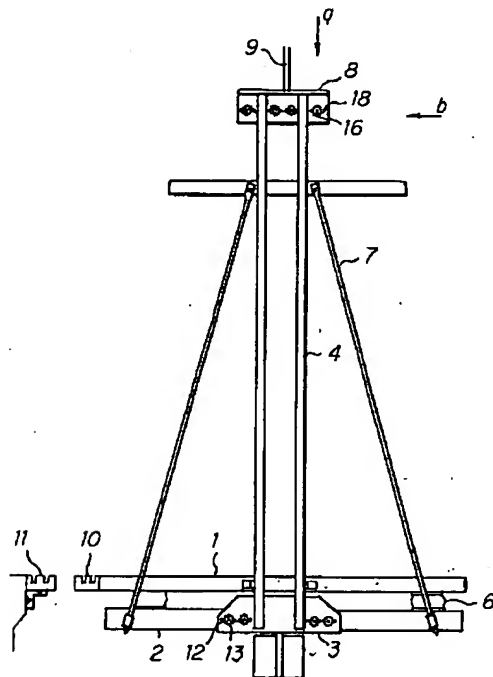
【0015】

【発明の効果】本発明によれば、以上のように構成してあることから、床の水平度と垂直度を保ちながら、シル間の調整を行なうことができ、したがって従来のようにシル間の調整後の再芯出し作業の懸念がなく、かご枠芯出し作業の能率を向上させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

【図1】



4

【図1】本発明のエレベーターかご枠の一実施例を示す正面図である。

【図2】図1のb方向矢視に対応する上梁と縦枠の接続前の状態を示す図である。

【図3】図1のa方向矢視に対応する上梁と縦枠の接続前の状態を示す図である。

【図4】従来のエレベーターかご枠を示す斜視図である。

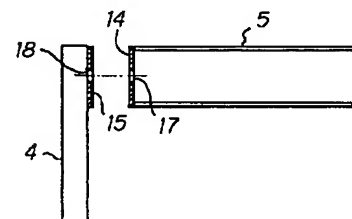
【図5】図4に示すエレベーターかご枠の正面図である。

【符号の説明】

- 1 床
- 2 下枠
- 3 ブラケット
- 4 縦枠
- 5 上梁
- 12 長穴
- 13 ボルト
- 14 プレート
- 15 プレート
- 16 ボルト
- 18 長穴

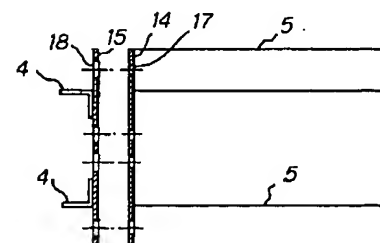
【図2】

【図2】



【図3】

【図3】

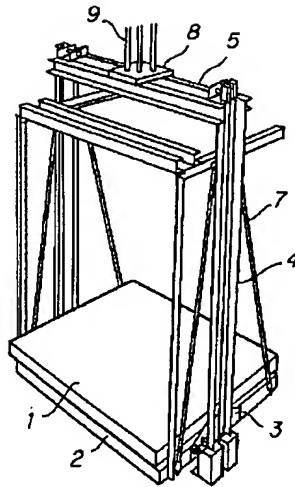


(4)

特開平5-246658

【図4】

【図4】



【図5】

【図5】

